

②入力フォーム一覧

各入力フォームの一覧画面を表示する。この画面で各フォームのデータ入力状況を確認できる。

フォーム	状態	担当者 氏名	最終 更新日
病院概要	入力済み	shima yoshi	2006/02/08 2006/02/09
調査項目I-1	入力済み	shima shunt	2006/02/14 2006/02/15
調査項目I-2	入力済み	shima	2006/03/15
調査項目I-3	入力済み	yoshi	2006/03/16
調査項目II	未入力	---	---
別紙1)病床数・患者数	未入力	---	---
別紙2)職員数	未入力	---	---
別紙3-1)医師数(内科部門)	未入力	---	---
別紙3-2)医師数(外科部門)	未入力	---	---
別紙3-3)医師数(その他部門)	未入力	---	---
別紙3-4)医師数(DPCコードに含まれない)	未入力	---	---
別紙3-5)医師数(DPCコードのない診療科)	未入力	---	---
別紙4)タイムスタディ(内科部門)	未入力	---	---

入力フォーム一覧

③データ入力画面

各調査項目の入力セルにデータを入力する。

調査項目I-1	
1. 院内組織	
1 全病棟数	09 病棟
2 全診療科数	5 診療科
3 責任の診療安全対策職員数	5 人
4 院内感染対策専任職員数	1 人
5 地域医療連携部門の設置の有無	○有○無
6 保健ITシステム(ITS)の有無	○有○無
7 ポラジティの人数	0 人
2. 職員数	
8 看護師数(自前)	5 人
9 看護師数(厚生労働省)	5 人
10 看護師数(厚生労働省)	0 人
11 専門看護師の数	0 人
12 認定看護師の数	0 人
13 看護師平均年齢	35 歳
14 看護実践能力の評価尺度の有無	○有○無
15 看護師配置数(UCI)	0 人
16 看護師配置数(UCI)	0 人

データ入力画面例 1

表 2. システムの評価結果 (データ収集担当者側)

評価項目	評価結果	
入力インタフェース	データ入力しやすさ	入力しやすい
	画面のみやすさ (文字の大きさ、表の配置、入力欄のわかりやすさ)	画面は見やすい。(文字の大きさ、表の配置、入力欄の分かりやすさについては問題ない)
	定義の表示があったほうが良いか	定義の表示は必要。別のページに定義をまとめ、必要に応じて参照できることが望ましい。
	データ確認のしやすさ	確認しやすい。
	過去データ (過去数年分等) の確認ができるか	確認できたほうが良い。
	入力・変更履歴 (修正前のデータを閲覧できる。誰がいつ入力したかのログ)	最後に誰がいつデータを入力したかを確認できればよい。データ収集担当者にはログのデータはおそらく必要ない。
	DPCデータについては、ファイル形式提出すると自動的にデータが表示される仕組みをどう思うか	入力の手間が減るため便利である。
エクセルとの比較によるメリット	入力頻度は年1回程度で十分か	入力頻度は年1回程度で十分である。
	個別のファイル管理の必要性	Webサーバにデータが格納されるため、各病院が個別にファイル管理する必要がなく、便利である。
	データの紛失がない	データを紛失する心配がなく安心である。
	データの管理	データの管理が楽である。
データ提出の手間	メールで提出する手間がない。データを収集したら適宜入力すれば良い。	

病床数・患者数

施設区分	稼働病床数 (床)	実用病床数 (床)	併入患者数 (A)	病床稼働率 (A)	患者数 (A)
1 総合病棟 病棟					
(1) 内科病棟					
(2) 外科病棟					
(3) 放射線科病棟					
(4) 集中治療室(ICU) 病床数					
(5) 新生児特定集中治療室(NCICU) 病床数					
(6) 新生児集中治療室(NCICU) 病床数					
(7) 産科病棟					
(8) 産科病棟(分娩室)					
(9) 産科病棟(分娩室) 病床数					
(10) 産科病棟(分娩室) 病床数					
(11) 産科病棟(分娩室) 病床数					
2 総合病棟以外の病棟 病棟					
(1) 産科病棟					

データ入力画面例 2

(4) インディケータのデータ収集・入力システムの検証

本研究実施者所属の大学病院でインディケータに関するデータの収集を担当する病院スタッフからの協力を得て、開発したシステムの評価を行った。その結果、データ入力・収集の際に本システムを利用することの有効性が確認された (表 2)。

また、調査データのとりまとめ担当者にとっては、以下に示すメリットが期待できる。

表 3. 調査データのとりまとめ担当者のメリット

- データの転記ミスがない
- リアルタイムで集計できる
- 各大学のデータ入力状況をリアルタイムで把握できる

(5) インディケータのデータ収集・入力システムの課題の整理

今回開発したデータ収集・入力システムの課題・要望としては以下の点が指摘された。

よりデータの収集や入力のしやすいシステムとするため、指摘された課題への対応策をさらに検討する必要がある。

表4. システムの課題・要望

<ul style="list-style-type: none">• <u>すべてのデータを Web 画面上で入力できる</u>ことが望ましい。エクセルファイルのアップロードと Web 入力の組み合わせは不要。• <u>入力したデータをダウンロード</u>できることが望ましい。将来的には、他の病院データもあわせてダウンロードできることが望ましい（参加病院からの合意を得ることが前提）。• <u>データの確定ルール</u>が必要。いったん確定させたデータについては、各大学が容易に修正できないようにすべき。確定方法としては、①締め切り日になると自動的にデータが確定される、②「確定」ボタンを設けて各大学に送信させる、等の方法が考えられる。• 自院のデータのみであればグラフ表示まではさほど必要ない。病院間でデータを共有して自院の位置づけを分析できる環境が整備された場合には、グラフ表示が整備されると便利である。

E. 結論

本研究では、インディケータに関するデータの収集を行う個別病院スタッフのためのデータ収集・入力システムを Web ベースのシステムとして開発した。

開発したシステムについて評価を行い、院内でデータ収集を担当する病院スタッフより、その有効性が確認された。特に、Web ベースのシステムの利点である、データの提出や提出後のデータ修正の手間を減らすこと、院外のサーバで集中管理されるためデータの管理がしやすいことなどについては、データ収集の担当者にも評価された。

システムの使い勝手をさらに向上させるため、今後、課題の解決を図り、システムのいっそうのブラッシュアップを図る。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
林同文、永井良三	循環器疾患における臨床情報管理システムとゲノム医療への応用	実験医学	Vol. 23, No. 4	637-644	2005
清水孝雄、永井良三、飯塚悦功、上原鳴夫	総合討論（第127回日本医学会シンポジウム—医学・医療安全の科学	第127回日本医学会シンポジウム（2004年8月）		131-139	2005
永井良三	日本の医療制度におけるマンパワーの問題	「21世紀の保健医療を考える—我が国にあるべき姿を求めて—」（ファイザー株式会社）		212-215	2005
永井良三	オーバービュー（日本医学会/第127回日本医学会シンポジウム講演要旨 医学・医療安全の科学）	日本医師会雑誌	Vol. 134, No. 3	455-457	2005
永井良三	医療機関の機能分担と大学病院の役割	日本医師会雑誌		18-20	2005
永井良三	大学病院における医療安全への対応	安全医学	Vol. 2, No. 1	3-6	2005
山本雄士、永井良三	医療現場でみる労働の質と量	内科	Vol. 96, No. 2	379-381	2005
橋口猛志、林同文、興沼貴英、真鍋一郎、永井良三	医療安全向上に向けた包括的アプローチと社会技術の実装	社会技術研究論文集	Vol. 3	196-204	2005
郡司俊秋、大西 真	検査値とケアのポイント	医学書院			2005
永井良三、大西真（座長）、柏野聡彦、村井佐知子	臨床指標による大学病院の医療の質・安全・患者満足度に関する調査報告書	全国医学部長・病院長会議（東京大学医学部附属病院 医療の質評価委員会・臨床指標検討WG			2005
大西 真	事例 大学病院の例 「臨床指標の実際—医療の質をはかるために—」	じほう出版 監修 医療マネジメント学会		85-108	
永井良三、飯塚悦功（対談）	医療の質・安全の確保に向けて 医療界と工業界でシステム構築へ（21世紀の医をつくる）	ばんぼう		46-49	2006
永井良三	基礎研究と医療の融合をめざす—東京大学先端医療	バイオテクノロジージャーナル	Vol. 6, No. 2	183-187	2006

参考資料

調査シート I-1 (病院全体)

1. 院内組織

手入力 標準 転記	自動計算 新規 収集	管理 会計	D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象と する場合の異 動性 (換算せず に実際の データを入 れてください)	提出データ (一定期間を 調査対象と する場合の換 算値)	単位	
													○
○					1 全病棟数	1)1看護単位を1病棟と定義する	10月1日 現在						病棟
○					2 全診療科数	1)医療法第70条に基づく標榜診療科数を記入する	10月1日 現在						診療科
○					3 専任の医療安全対策職員数	1)専任の医療に係る安全管理を行う職員数を記入する 2)専任とは、専ら安全管理業務に従事する者であり、他部門と兼任していない者をさす 3)職種・資格は問わない	10月1日 現在						人
○					4 院内感染対策専任職員数	1)専任の院内感染対策を行う職員数を記入する 2)専任とは、専ら院内感染対策業務に従事する者であり、他部門と兼任していない者をさす 3)職種・資格は問わない	10月1日 現在						人
○					5 地域医療連携部門の設置の有無	1)地域連携や退院支援、病診連携といった役割を担う部門をさす	10月1日 現在						有無
○					6 栄養サポートチーム (NST) の有無	1)下記の1と2の条件をともに満たす場合、「有」とする ①NSTを病院内組織として少なくとも病院長あるいは施設長が認めていること ②学会(日本静脈経腸栄養学会、日本病態栄養学会)による認定を受けていること	10月1日 現在						有無
○					7 ボランティアの人数	1)調査指定日に働いているボランティアの数を記入する 2)ボランティア登録者数ではない	10月第一 月曜日 現在						人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

2. 職員数

標準 記	新 規 収 入	自 動 計 算	D P C	監 理 番 号	収 入 項 目	定 義	望 ま い 測 定 日・ 測 定 期 間	調 査 開 始 日	調 査 終 了 日	一 定 期 間 を 調 査 対 象 と す る 場 合 の 実 測 値 (換 算 せ ず に 実 際 の デ ー タ を 入 れ て く だ さ い)	単 位	提 出 デ ー タ (一 定 期 間 を 調 査 対 象 と す る 場 合 の 換 算 値)	単 位	
														手 入 力
○					医師数	別紙3にて集計をいたします。								
○					8 看護師数 (日勤帯)	1)調査指定日の日勤帯(10:00)に、一般病棟に勤務している看護師の実人数を記入する。 2)深夜勤帯の者が残業していた場合についてはこれを含まない。	10月第一 月曜日現 在							人
○					9 看護師数 (準夜勤帯)	1)調査指定日の準夜勤帯(21:00)に、一般病棟に勤務している看護師の実人数を記入する。 2)日勤帯の者が残業していた場合についてはこれを含まない。	10月第一 月曜日現 在							人
○					10 看護師数 (深夜勤帯)	1)調査指定日の深夜勤帯(3:00)に、一般病棟に勤務している看護師の実人数を記入する。 2)準夜勤帯の者が残業していた場合についてはこれを含まない。	10月第一 月曜日現 在							人
○					11 専門看護師の数	1)日本看護協会が定める専門看護師の有資格者数を記入する	10月1日 現在							人
○					12 認定看護師の数	1)日本看護協会が定める認定看護師の有資格者数を記入する	10月1日 現在							人
○					13 看護師平均年齢	1)調査指定日現在における、常勤看護師の平均年齢を記入する 2)算出対象は看護師、准看護師とし、看護業務補助者は除外する 3)正職員の常勤職員について記入する	10月第一 月曜日現 在							歳
○					14 看護実践能力の評価尺度の有無	1)看護実践能力の評価を行うための何らかの尺度を設け、定期的に計測している場合に「有」とする	10月1日 現在							有無
○					15 薬剤師配置数 (ICU)	1)ICU専任の薬剤師数を記入する	10月1日 現在							人
○					16 薬剤師配置数 (NICU)	1)NICU専任の薬剤師数を記入する	10月1日 現在							人
○					17 薬剤師配置数 (CCU)	1)CCU専任の薬剤師数を記入する	10月1日 現在							人
○					18 薬剤師配置数 (HCU)	1)HCU専任の薬剤師数を記入する	10月1日 現在							人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

3. 患者数－外来患者数

手入力 帳簿転記	自動計算 新規取集	自動計算 管理会計 D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とする 場合の突 測値 (検算せずに実 際のデータを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とする 場合の換 算値)	単位
○				19 外来初診患者数	1)初診料を算定した患者数を記入する	年間				人		人
○				20 延べ外来患者数	1)原則としてカルテを作成した者の延べ数を記入する 2)重複診療科受診、入院患者の外来受診、救急患者/健康診断実施者の取扱、患者代理人への薬品の交付についてもカルテ作成の有無にてカウントするか否かを判断する。	年間				人		人
△	△			21 二次医療圏外からの延べ外来患者数	1)二次医療圏とは、医療法第30条の3第2項第1号及び第2号により規定された区域をさす。 2)期間中の外来患者を対象とし、自施設の当該二次医療圏外に居住する外来患者の延べ数を計上すること	年間				人		人
○				22 外来診療日数	1)期間中の休祝日を除く外来診療日数を記入する 2)土曜日については診療を行っていれば診療日に加える 3)半日診療であれば0.5日として計算する 4)救急外来については対象としない。	年間				日		日
○				23 外来で化学療法を行った延べ患者数	1)外来化学療法加算の算定患者を対象とし、その延べ患者数を記入する	年間				人		人

注：調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

4. 患者数－紹介・逆紹介患者数

手入力 帳簿転記	自動計算 新規取集	自動計算 管理会計 D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とする 場合の突 測値 (検算せずに実 際のデータを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とする 場合の換 算値)	単位
○				24 紹介患者数	1)期間中の全患者を対象とし、他の医療機関から紹介を受けたすべての患者数を記入する	年間				人		人
△	△			25 紹介患者数 (特定機能病院から)	1)期間中の全患者を対象とし、特定機能病院から紹介を受けた患者数を記入する	年間				人		人
△	△			26 紹介患者数 (一般病院から)	1)期間中の全患者を対象とし、特定機能病院以外の病院から紹介を受けた患者数を記入する	年間				人		人
△	△			27 紹介患者数 (診療所から)	1)期間中の全患者を対象とし、診療所から紹介を受けた患者数を記入する	年間				人		人
△	△			28 紹介患者数 (その他の場所から)	1)期間中の全患者を対象とし、その他の場所から紹介を受けた患者数を記入する 2)その他の場所とは、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、精神障害者社会復帰施設、海外の病院等が含まれる	年間				人		人

注：調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

4. 患者数—紹介・逆紹介患者数(つづき)

手入力	自動計算	整理番号	収集項目	定義	望ましい測定日・測定期間	調査開始日	調査終了日	一定期間を調査対象とする場合の調査値 (換算せずに実際のデータを入れてください)	単位	提出データ (一定期間を調査対象とする場合の換算値)	単位
○			29 逆紹介患者数	1)逆紹介患者とは診療情報提供料を算定した患者とする 2)期間中の全患者を対象とし、紹介先に関わらずすべての逆紹介患者数を記入する	年間				人		人
△	△		30 逆紹介患者数 (特定機能病院へ)	1)逆紹介患者とは診療情報提供料を算定した患者とする 2)期間中の全患者を対象とし、特定機能病院へ紹介した患者数を記入する	年間				人		人
△	△		31 逆紹介患者数 (一般病院へ)	1)逆紹介患者とは診療情報提供料を算定した患者とする 2)期間中の全患者を対象とし、特定機能病院以外の病院へ紹介した患者数を記入する	年間				人		人
△	△		32 逆紹介患者数 (診療所へ)	1)逆紹介患者とは診療情報提供料を算定した患者とする 2)期間中の全患者を対象とし、診療所へ紹介した患者数を記入する	年間				人		人
△	△		33 逆紹介患者数 (その他の場所へ)	1)逆紹介患者とは診療情報提供料を算定した患者とする 2)期間中の全患者を対象とし、その他の場所へ紹介した患者数を記入する 3)その他の場所とは、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、精神障害者社会復帰施設、海外の病院等が含まれる	年間				人		人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

5. 患者数—入院患者数

手入力	自動計算	整理番号	収集項目	定義	望ましい測定日・測定期間	調査開始日	調査終了日	一定期間を調査対象とする場合の調査値 (換算せずに実際のデータを入れてください)	単位	提出データ (一定期間を調査対象とする場合の換算値)	単位
		○	34 在院日数中央値	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の一般病床退院患者を対象とし、在院日数の中央値(測定値を大きさの順に並べた際中央にくる値)を記入する 2)測定数(N)が奇数の場合、(N+1)/2番目の値を記入し、偶数の場合(N/2)番目と(N/2)+1番目の値の平均値を記入する。たとえば測定が5つあれば3番目の値になる。	7月～10月				日		日
○			35 在院患者数 (一般病床)	1)調査指定日24時における一般病床入院患者数を記入する 2)調査指定日に退院した患者は含まない	10月 第一月曜日現在						人
○			36 長期入院患者数 (一般病床)	1)調査指定日24時における一般病床入院患者のうち在院日数が90日以上 の患者数を記入する 2)調査指定日に退院した患者は含まない	10月 第一月曜日現在						人
○			37 在院患者数 (精神病床)	1)調査指定日24時における精神病床入院患者数 2)調査指定日に退院した患者は含まない	10月 第一月曜日現在						人
○			38 長期入院患者数 (精神病床)	1)調査指定日24時における精神病床入院患者のうち在院日数が90日以上 の患者数を記入する 2)調査指定日に退院した患者は含まない	10月 第一月曜日現在						人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

6. 患者数－退院患者数

手入力 備考転記	自動計 算	整理 番号	取集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の検 測値 (検査せずに実 際のデータを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とす る場合の換 算値)	単位
			39 退院先別患者数 (自院外来)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院先が自院外来の患者数を記入する	7月～ 10月				人		人
			40 退院先別患者数 (他院外来)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院先が他院外来の患者数を記入する	7月～ 10月				人		人
			41 退院先別患者数 (転院)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、転院した患者数を記入する	7月～ 10月				人		人
			42 退院先別患者数 (終了)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院先「終了」の患者数を記入する 2)人間ドックの退院(所見の有無に関わらない)及び死亡退院の場合も含む	7月～ 10月				人		人
			43 退院先別患者数 (その他)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院先「その他」の患者数を記入する 2)退院先「その他」とは、病院若しくは診療所以外の医療機関をさす。介護老人 保健施設、介護老人福祉施設、精神障害者社会復帰施設等が含まれる	7月～ 10月				人		人
			44 退院転帰別患者数 (治癒)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「治癒」の患者数を記入する。 2)最も医療資源を投入した傷病が治癒したと判断される場合。	7月～ 10月				人		人
			45 退院転帰別患者数 (軽快)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「軽快」の患者数を記入する。 2)最も医療資源を投入した傷病が軽快したと判断される場合。	7月～ 10月				人		人
			46 退院転帰別患者数 (寛解)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「寛解」の患者数を記入する。 2)最も医療資源を投入した傷病が寛解したと判断される場合。	7月～ 10月				人		人
			47 退院転帰別患者数 (不変)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「不変」の患者数を記入する。 2)最も医療資源を投入した傷病が不変であったと判断される場合。	7月～ 10月				人		人
			48 退院転帰別患者数 (増悪)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「増悪」の患者数を記入する。 2)最も医療資源を投入した傷病が増悪したと判断される場合。	7月～ 10月				人		人
			49 退院転帰別患者数 (死亡)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「死亡」の患者数を記入する。 2)最も医療資源を投入した傷病によって死亡したと判断される場合をさす。	7月～ 10月				人		人
			50 退院転帰別患者数 (最多医療資源投 入傷病外死亡)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「死亡、最多医療資源投入傷病以 外」の患者数を記入する。 2)最も医療資源を投入した傷病以外による死亡をさす。	7月～ 10月				人		人
			51 退院転帰別患者数 (その他)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、退院時転帰「その他」の患者数を記入する。	7月～ 10月				人		人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

7. 患者数—再入院患者数

手入力 履歴転記	自動計算 新規収集	管理会計 D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の実際 測値 (換算せずに実 測のデータを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とす る場合の換 算値)	単位
				○ 52 予定しない再入院患者数 (同一病名:31日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から31日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が一致した場合(ICD-10コード) 2)同一疾患の悪化または再発症例を対象とする 3)今回の入院目的が検査入院と計画的再入院であるものを除く	7月～10月				人		人
				○ 53 予定しない再入院患者数 (同一病名:15日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から15日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が一致した場合(ICD-10コード) 2)同一疾患の悪化または再発症例を対象とする 3)今回の入院目的が検査入院と計画的再入院であるものを除く	7月～10月				人		人
				○ 54 予定しない再入院患者数 (異なる病名:31日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から31日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が異なる場合(ICD-10コード) 2)今回の入院目的が検査入院と計画的再入院であるものを除く	7月～10月				人		人
				○ 55 予定しない再入院患者数 (異なる病名:15日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から15日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が異なる場合(ICD-10コード) 2)今回の入院目的が検査入院と計画的再入院であるものを除く	7月～10月				人		人
				○ 56 予定した再入院患者数 (検査入院:31日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から31日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が一致した場合(ICD-10コード) 2)今回の入院目的が検査入院のもの	7月～10月				人		人
				○ 57 予定した再入院患者数 (検査入院:15日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から15日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が一致した場合(ICD-10コード) 2)今回の入院目的が検査入院のもの	7月～10月				人		人
				○ 58 予定した再入院患者数 (計画的再入院:31日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から31日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が一致した場合(ICD-10コード) 2)今回の入院目的が検査入院のもの	7月～10月				人		人
				○ 59 予定した再入院患者数 (計画的再入院:15日以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から31日以内に再入院となった患者について、前回入院の医療資源を最も投入した病名と、今回入院契機病名が一致した場合(ICD-10コード) 2)今回の入院目的が検査入院のもの	7月～10月				人		人
				○ 60 再入院患者数 (退院後48時間以内)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)前回退院から48時間以内に再入院となった患者数を記入する 2)「48時間以内」が難しい場合には「2日以内」でも可	7月～10月				人		人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

8. 患者数-退院患者数(DPC)

手入力 標準 記載	自動 計算 DPC	管理 会計 DPC	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の集 計 (集計せずに院 際データを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とす る場合の集 計)	単位
			○	61 退院患者数 (65歳以上)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、65歳以上の患者数を記入する。	7月～ 10月				人		人
			○	62 退院患者数 (1歳未満)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、1歳未満の患者数を記入する	7月～ 10月				人		人
			○	63 退院患者数 (難病患者)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)難病とは、難治性疾患克服研究事業の対象である121疾患をさす。 2)期間中の退院患者を対象とし、主傷病が補足資料①難治性疾患克服研究 事業対象疾患に定義するICD10コードに該当する患者数を記入する。	7月～ 10月				人		人
			○	64 退院患者数 (入院時併存症疾 患)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、入院時に主傷病以外の疾患を有していた患 者数を記入する。	7月～ 10月				人		人
			○	65 入院時併存症延べ 疾患数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、入院時併存症延べ疾患数を記入する。 2)入院時併存症とは、入院時に既に存在していた主傷病以外の疾患をさす。入 院後の検査で発見された傷病であっても、入院時に既にその病態があったと主 治医が判断できる場合は、入院時併存症として扱う。	7月～ 10月				件		件
			○	66 退院患者数 (入院後発症疾 患)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、入院後に新たに主傷病以外の疾患を発症した 患者数を記入する。	7月～ 10月				人		人
			○	67 入院後発症延べ疾 患数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、入院後発症延べ疾患数を記入する。 2)入院後発症とは、入院後に新たに発生した主傷病以外の疾患をさす。当該疾 患の原因が入院前にあるとしても、発生した時期が入院後の場合には入院後発 症として扱う。	7月～ 10月				件		件
			○	68 入院後発症疾患有 患者の延べ在院日 数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とする。 2)DPC様式1「入院後発症疾患」に1つ以上記載のある退院患者の在院日数の 合計を記入する。	7月～ 10月				人日		人日
			○	69 入院契機傷病名と 医療資源最投入傷 病名が異なる患者 数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし入院契機傷病名と医療資源最投入傷病名が異 なる患者の数を記入する。	7月～ 10月				人		人
			○	70 主傷病名と医療資 源最投入傷病名が 異なる患者数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし主傷病名と医療資源最投入傷病名が異なる患 者の数を記入する。	7月～ 10月				人		人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

8. 患者数—退院患者数(DPC) (つづき)

手入力 備考 転記	自動計 算 備考 転記	管理 会計 備考 転記	D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の突 測値 (換算せずに突 破のデータを 入れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とす る場合の換 算値)	単位	
					71 入院時ADLスコア総得点	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、DPCの定義による入院時ADLスコアが10以下の患者数を記入する。 ※例:入院時ADLスコアが"1211111100"の場合、合計で9点になります。	7月～ 10月					人		人
					72 退院患者数 (くも膜下出血 :JCS=300)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、主傷病名がくも膜下出血(ICDコード:1600-609)に該当し、かつ入院時JCSが300である患者数を記入する。	7月～ 10月					人		人
				○	73 退院先別患者数 (自院内の転科)	1)期間中の退院患者を対象とし、自院内の他科へ転科し、継続して入院治療を受けた件数を記入する 2)同一患者が複数回、転科した場合はその件数を計上する。	7月～ 10月					件		件
					74 退院患者数 (腎不全)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、主傷病名が腎不全(ICDコード:N170-N19)に該当する患者数を記入する。	7月～ 10月					人		人
					75 退院患者数 (DIC)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、主傷病名がDIC(ICD10コード:D65)に該当する患者数を記入する。	7月～ 10月					人		人
					76 退院患者数 (肝硬変)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、主傷病名または併存病名が肝硬変の患者数を記入する。	7月～ 10月					人		人
					77 退院患者数 (Child分類C)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、主傷病名が肝硬変でありChild-Pugh分類gradeC(スコア10点～15点)にあてはまる患者数を記入する。	7月～ 10月					人		人
					78 退院患者数 (心不全患者)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、主傷病名が心疾患患者であり、NYHAスコアを入力した心不全患者数を記入する。	7月～ 10月					人		人
					79 退院患者数 (NYHAスコア4 度)	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、主傷病名が心疾患患者であり、入院時又は心不全発症時点でNYHA心機能分類IV度にあてはまる患者数を記入する。 2)心不全が1入院中に複数回生じた場合、その中で最も重症な場合をさす。	7月～ 10月					人		人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

9. 手術—手術件数

手入力	自働計算	整理番号	収集項目	定義	望ましい測定日・測定期間	調査開始日	調査終了日	一定期間を調査対象とする場合の異測値 (換算せずに実際のデータを入れてください)	単位	提出データ (一定期間を調査対象とする場合の換算値)	単位
○			80 全手術件数	1)期間中に手術室で行われた全ての手術を対象とし、その延べ件数を記入する。 2)入院・外来の別を問わない。 3)高度先進医療、先進医療の件数も含む。	年間				件		件
○			81 予定手術件数	1)期間中に手術室で行われた予定手術を対象とし、その延べ件数を記入する。 2)入院・外来の別を問わない。 3)予定手術とは、初診後48時間以内(遅しければ2日以内)に手術を行う医学的緊急性がなかった手術をさす。 4)高度先進医療、先進医療の件数も含む。	年間				件		件
○			82 緊急手術件数	1)期間中に手術室で行われた緊急手術を対象とし、その延べ件数を記入する。 2)入院・外来の別を問わない。 3)緊急手術とは、初診後48時間以内(遅しければ2日以内)に手術を行う必要のあった、医学的緊急性の高い手術をさす。 4)高度先進医療、先進医療の件数も含む。	年間				件		件
		○	83 開心術件数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、補足資料②開心手術-診療報酬点数区分対応表に定義する開心術手術件数を記入する。	7月～ 10月				件		件
		○	84 開頭術件数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、補足資料③開頭手術-診療報酬点数区分対応表に定義する開頭術手術件数を記入する。	7月～ 10月				件		件
		○	85 悪性腫瘍手術件数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、悪性腫瘍手術件数を記入する。	7月～ 10月				件		件

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

9. 手術－手術件数(つづき)

手入力 帳票転記	自動計 算	管理 D P C	診療 番号	取集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の突 出値 (横線を引いて 入力して下さい)	単位 (一定期間を 調査対象とす る場合の換 算値)	単位
		○	86	延べ術前日数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、当該入院中に手術を受けた患者の術前日数の合計を記入する。 2)入院中に複数回手術を行った場合は、当該入院最初の手術の術前日数で算出する。	7月～ 10月				人日	人日
		○	87	延べ術後日数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、当該入院中に手術を受けた患者の術後日数の合計を記入する。 2)入院中に複数回手術を行った場合は、当該入院最後の手術の術後日数で算出する。	7月～ 10月				人日	人日
		○	88	手術全身麻酔件数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、当該入院中に手術を受けた患者の主たる手術(又は最も点数の高い手術)実施時に使用した主たる麻酔の種類が全身麻酔であった件数を記入する	7月～ 10月				件	件
		○	89	総麻酔件数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、当該入院中に実施した手術のうち麻酔を行った件数を記入する。 2)麻酔が併用されている場合でも、1手術1カウントとする。 3)麻酔は局所麻酔などすべての麻酔を含むものとする。	7月～ 10月				件	件
		○	90	併用麻酔件数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の退院患者を対象とし、当該入院中に実施した手術のうち、全身麻酔とそれ以外の麻酔法を併用して手術を行った件数を記入する。 2)DPC様式1の「6.全麻+硬膜外」に該当する麻酔件数を記入する。 3)麻酔は局所麻酔などすべての麻酔を含むものとする。	7月～ 10月				件	件
	○		91	緊急手術件数 (入院患者)	1)期間中に行われた手術を対象とし、入院患者の緊急手術件数を記入する。 2)手術回数は問わない。 3)緊急手術とは、初診後48時間以内(難しければ2日以内)に手術を行う必要のあった、医学的緊急性の高い手術をさす。 4)病棟や外来で行われた手術については除外する。	年間				件	件
	○		92	緊急手術件数 (外来経由患者)	1)期間中に行われた手術を対象とし、外来経由の緊急手術件数を記入する。 2)手術回数は問わない。 3)緊急手術とは、初診後48時間以内(難しければ2日以内)に手術を行う必要のあった、医学的緊急性の高い手術をさす。 4)病棟や外来で行われた手術については除外する。	年間				件	件
	○		93	緊急手術件数 (外来経由患者： 初回手術)	1)期間中に行われた手術を対象とし、外来経由の緊急手術件数を記入する。 2)自院での初回手術を対象とする。 3)緊急手術とは、初診後48時間以内(難しければ2日以内)に手術を行う必要のあった、医学的緊急性の高い手術をさす。 4)病棟や外来で行われた手術については除外する。	年間				件	件

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

10. 手術－再手術件数

手入力 帳票転記	自動計算 新規収集	自動計算 管理会計 D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とする 場合の換 算値 (換算せずに実 際のデータを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とする 場合の換 算値)	単位
○				94 緊急手術件数 (入院患者：再手術)	1)期間中に行われた手術を対象とし、入院中の患者の緊急手術の件数を記入する。 2)自院での2回目以上の手術を対象とする。 3)緊急手術とは、初診後48時間以内(難しければ2日以内)に手術を行う必要があった、医学的緊急性の高い手術をさす。 4)病棟や外来で行われた手術については除外する。	年間				件		件
	○			95 予定手術後48時間 (または2日)以 内の再手術件数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中に行われた手術を対象とし、そのうち術後48時間以内に行われた、予定していなかった再手術件数を記入する。	7月～ 10月				件		件
		○		96 術後31日以内の死 亡患者数	0)様式1と様式5(Gファイル)を提出いただければ調査不要です。 1)期間中の死亡退院患者を対象とし、術後31日以内で死亡退院した患者数を記入する。 2)死亡原因は問わない。	7月～ 10月				人		人

注：調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

11. 高度医療

手入力 帳票転記	自動計算 新規収集	自動計算 管理会計 D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とする 場合の換 算値 (換算せずに実 際のデータを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とする 場合の換 算値)	単位
○				97 高度先進医療・先 進医療申請数 (医科)	1)期間中に新規に申請した高度先進医療・先進医療(医科)の数を記入する。	年間				件		件
○				98 高度先進医療・先 進医療新規承認数 (医科)	1)申請したもののうち、期間中に新規に承認された高度先進医療・先進医療の 数(医科)を記入する。	年間				件		件
○				99 高度先進医療・先 進医療承認数 (医科)	1)調査指定日現在に承認されている高度先進医療・先進医療(医科)の数を記 入する。	10月1日 現在						件

注：調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

11. 高度医療(つづき)

手入力 帳票 帳簿 記	自動計 算	管理 番号	D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の換 算係数 (換算せず に実際 のデータ を記入 してくだ さい)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とす る場合の換 算係数)	単位
○					100 高度先進医療・先 進医療実施患者数 (医科)	1)期間中に高度先進医療・先進医療(医科)を実施した患者数を記入する。	年間				人		人
○					101 肝臓移植実施件数	1)期間中に実施された肝臓移植の件数を記入する。 2)ICD-9-CM:50.5-に該当する。	年間				件		件
○					102 腎臓移植実施件数	1)期間中に実施された腎臓移植の件数を記入する。 2)ICD-9-CM:55.6-に該当する。	年間				件		件
○					103 肺移植実施件数	1)期間中に実施された肺移植の件数を記入する。 2)ICD-9-CM:33.5-に該当する。	年間				件		件
○					104 心臓移植実施件数	1)期間中に実施された心臓移植の件数を記入する。 2)ICD-9-CM:37.5-に該当する。	年間				件		件
○					105 治験契約件数	1)当該年度の治験契約件数(プロトコル数)を記入する。 2)新規契約と以前からの契約件数(複数年度契約の場合)を合計した数を記入し、外来入院の別を問わない。 3)「治験」の範囲は、特定療養費の対象となる薬事法上の治験(薬事法(昭和35年法律第145号)第2条第7項に規定する治験)とする。	年間				件		件
○					106 治験実施件数	1)期間中の治験実施患者数を記入する。プロトコル数ではない。 2)「治験」の範囲は、特定療養費の対象となる薬事法上の治験(薬事法(昭和35年法律第145号)第2条第7項に規定する治験)とする。	年間				件		件
○					107 治験契約症例件数	1)期間中の治験実施予定患者数を記入する。プロトコル数ではない。 2)「治験」の範囲は、特定療養費の対象となる薬事法上の治験(薬事法(昭和35年法律第145号)第2条第7項に規定する治験)とする。	年間				件		件

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

12. カルテ管理

手入力 標準転記	自動計算 新規収集	管理会計 D P C	整理 番号	収集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の突 測値 (換算せず に実際のデータ を入れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とす る場合の換 算値)	単位
	〇		108	指導医（主治医） が未記載の退院カ ルテ数	1)調査期間中に退院した患者を対象とし、中央病歴室に提出されたカルテのうち指導医(主治医)の記載のないカルテ数を記入する。 2)記載の有無を問題とし、記載の頻度を問わない。カルテの経過記録の中に1箇所でも指導医の記載(サインまたはサイン+コメント)があれば「記載有」とする。 3)各病院が定める主治医の要件を満たさない医師(例:研修医等)が担当医として診療にあたっている場合には、主治医資格を有するものが「指導医」として担当医を指導し、カルテの記載をチェックしてサインする必要がある。主治医の要件を満たす医師が一人で診療にあたっている場合にも、主治医本人のサインが必要である。	任意の 1週間				件		件
	〇		109	退院後1週間以内 のカルテ提出数	1)調査期間中に退院した患者を対象とし、退院後1週間以内に中央病歴室などにカルテが提出された数を記入する。 2)退院後1週間目が休日である場合には、休日明けの提出でよい。	任意の 1週間				件		件
	〇		110	患者の退院からカ ルテ提出までの平 均期間	1)調査期間中に退院した患者を対象とし、カルテが提出されるまでに要した平均期間を記入する。	任意の 1週間				日		日
	〇		111	退院サマリを記載 してあるカルテ数 (退院後1週間以 内提出)	1)調査期間中に退院した患者を対象とし、退院後1週間以内に提出された、退院サマリが書かれたカルテの数を記入する。 2)転科の場合には、退院時の診療科のサマリを対象とする。 3)退院後1週間目が休日である場合には、休日明けの提出でよい。	任意の 1週間				件		件
	〇		112	手術記録を記載し てあるカルテ数 (退院後1週間以 内提出)	1)調査期間中に退院した患者を対象とし、退院後1週間以内に提出された手術記録が書かれたカルテの数を記入する。 2)退院後1週間目が休日である場合には、休日明けの提出でよい。 3)高度先進医療、先進医療の件数を含む	任意の 1週間				件		件
	〇		113	期間中の退院カ ルテ数	1)調査期間中に退院した患者数と同意である。	任意の 1週間				件		件
	〇		114	手術を受けた退 院患者のカルテ数	1)調査期間中に退院した患者を対象とし、手術を受けた患者のカルテの数を記入する。 2)「手術術式難易度-診療報酬点数区分対応表」未掲載の手術、高度先進医療、先進医療の件数も含む。	任意の 1週間				件		件
	〇		115	1患者1カルテ体制 の有無	1)入院外来ともに以下の二つの条件を満たす場合、「有」とする。 ①患者に対して診療科を超えて同一のIDが付されている。 ②カルテが病歴部等で中央管理されている。	10月1日 現在						有無

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

13. 感染制御

手入力 帳簿 備考	自動計算 新集 管理 D P C	整理 番号	取集項目	定義	望ましい 測定日・ 測定期間	調査 開始日	調査 終了日	一定期間を 調査対象とす る場合の異 測値 (換算せず に実際の データを入 れてください)	単位	提出データ (一定期間を 調査対象とす る場合の換 算値)	単位
○			116 インフルエンザワ クチンを接種した 職員の人数	1)調査年度にインフルエンザ予防接種を受けた職員数を記入する。	年間				人		人
○			117 病棟の速乾性アル コール手指消毒薬 使用量	1)調査年度の速乾性アルコール手指消毒薬の使用量を記入する。 2)使用量=購入量-在庫量とする。	年間				ml		ml
○			118 メチシリン耐性黄 色ブドウ球菌 (MRSA)による院内 感染発生患者数	1)期間中の新規MRSA発症患者数を記入する。 2)保菌者による持ち込み感染はカウントしない。 3)入院三日目以降に発生したものを記入する。	年間				人		人
○			119 多剤耐性緑膿菌 (MDRP)による院内 感染発生患者数	1)期間中の新規MDRP発症患者数を記入する。 2)保菌者による持ち込み感染はカウントしない。 3)入院三日目以降に発生したものを記入する。	年間				人		人
○			120 D P Cの平均在院 日数(入院期間Ⅱ 日)以降に抗生物 質が使用された患 者数	1)期間中の退院患者を対象とし、DPCで決められた在院日数(入院期間Ⅱ日) 以降に抗生物質が使用された患者数を記入する。 2)抗生物質は、バンコマイシン、メロペン、チエナム、アルベカシン、テイコプラニ ンの5種類を対象とする。	年間				人		人
○			121 D P Cの平均在院 日数(入院期間Ⅱ 日)より抗生物質 の総投与日数が長 い患者数	1)期間中の退院患者を対象とし、DPCで決められた在院日数(入院期間Ⅱ日)より 抗生物質の総投与日数が長い患者数を記入する。 2)抗生物質は、バンコマイシン、メロペン、チエナム、アルベカシン、テイコプラニ ンの5種類を対象とする。	年間				人		人

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。

14. 患者安全－インシデント・事故

手入力 標準 帳簿 記	自動計 算 新規 収 入 管 理 会 計 D P C	監 理 番 号	収 集 項 目	定 義	返 求 し い 測 定 日 ・ 測 定 期 間	調 査 開 始 日	調 査 終 了 日	一 定 期 間 を 調 査 対 象 と す る 場 合 の 実 測 値 (換 算 す べ き 数 値 の デ ー タ を 入 れ て く だ さ い)	提 出 デ ー タ (一 定 期 間 を 調 査 対 象 と す る 場 合 の 換 算 値)	単 位	単 位
			122 インシデント・アクシデントレポート提出数 (総数)	1)期間中の全インシデント・アクシデントレポート提出数を記入する。 2)同一のインシデント・アクシデントに対して複数の報告があった場合には、重複も含めた総数とする。	年間					件	件
			123 インシデント・アクシデントレポート提出数 (医師)	1)期間中の医師によるインシデント・アクシデントレポート提出数を記入する。 2)同一のインシデント・アクシデントに対して複数の報告があった場合には、重複も含めた総数とする。	年間					件	件
			124 インシデント・アクシデントレポート提出数 (看護師)	1)期間中の看護職(看護師・准看護師)によるインシデント・アクシデントレポート提出数を記入する。 2)同一のインシデント・アクシデントに対して複数の報告があった場合には、重複も含めた総数とする。	年間					件	件
			125 インシデント・アクシデントレポート提出数 (その他職員)	1)期間中の医師、看護職以外の職員によるインシデント・アクシデントレポート提出数を記入する。 2)同一のインシデント・アクシデントに対して複数の報告があった場合には、重複も含めた総数とする。	年間					件	件
			126 事案件数 (異物残存)	1)ガーゼ、針、金属等の異物残存件数を記入する。 2)インシデントレポート・アクシデントレポートで報告されている事案件数を記入する。 3)1つの事例について複数の報告があった場合には1件とカウントする。	年間					件	件
			127 事案件数 (誤部位手術)	1)手術部位を誤って手術を実施した件数を記入する。 2)インシデントレポート・アクシデントレポートで報告されている事案件数を記入する。 3)1つの事例について複数の報告があった場合には1件とカウントする。	年間					件	件
			128 事案件数 (誤患者手術)	1)手術対象患者を誤って手術を実施した件数を記入する。 2)インシデントレポート・アクシデントレポートで報告されている事案件数を記入する。 3)1つの事例について複数の報告があった場合には1件とカウントする。	年間					件	件
			129 薬剤投与に関連したインシデント・アクシデント件数	1)期間中の入院患者を対象とし、薬剤の投与に関連したインシデント・アクシデント件数を記入する。 2)患者側の過誤による事故は含めない。	年間					件	件
			130 M&Mカンファレンスでの検討症例数	1)病院全体が対象となる医療事故要因分析検討会の検討症例数を記入する。 2)職員の自由参加が認められるものに限る。	年間					症例	症例
			131 リストバンド装着率	入院患者(15歳未満を除く)のうち、リストバンド(ネームバンド)を常時装着している患者の割合。	年間					%	%

注:調査開始日、「調査終了日」欄には、貴院が実際に測定された年月日を記入してください。

日付の記入形式は、例えば2005年10月1日の場合には「2005/10/1」となります。調査年度は西暦でご記入下さい。